

高齢者の地域活動参加と 社会的ネットワーク

星 敦 士

1. 問題設定

はじめに

本稿の目的は、人々が居住する地域において行われているボランティア、趣味のサークル、自治会・町内会といった諸種の社会活動への参加が日常生活における社会関係、すなわち社会的ネットワークの様相に与える影響を検証することである。近年、「公助」を主とした社会システムから「自助」「共助」を主とした社会システムへの転換が進められているなかで、子育て支援や介護予防、障害者支援など社会福祉分野を中心として、地域コミュニティにおける住民間の相互支援関係の構築が注目されてきた（和田 2002; 厚生労働省 2003; 園田 2003; 渡邊 2007）。このような住民間関係は、地域コミュニティへの関わり、地域で行われている諸活動への参加という形でとらえることもできるし、もう一方では個人が取り結ぶ社会的ネットワーク、とりわけ育児や介護、悩みの相談といった日常生活の様々なイベントにおける支援の担い手として機能するサポートネットワークとしてとらえることもできる。地域における社会関係のあり方をとらえるという点では近似しているようにも思われるこれら2つの「関係」ではあるが、その関連を実証的に検討した研究はほとんど見られない。Putnam（1993=2001）に代表されるソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の議論では、社会学、経済学、政治学など多様な研究領域において地域に住む人々間のネットワークを通じた相互扶助、信頼関係の構築、市民活動への参加、コミュニティ形成など地域における社会関係に関連する概念が広く扱われているが、地域レベルでの集合行動への参加と個人の保有するパーソナル

な関係の共変関係は自明のものとされている場合が多い。本稿ではこれらの議論を少しさかのぼって「地域で行われている様々な活動に参加することは個人の社会関係にどのような影響を与えるのか」「地域活動への参加は手助けが必要な時に頼ることができる人間関係を醸成するのか」という問いについて検討したい。

具体的には、2006年に兵庫県を対象に実施した「兵庫県民のコミュニティと生活に関する調査」から得られたデータのうち60歳から69歳の定年期に近い高年齢者を対象として、地域で行われているNPO・ボランティア・市民活動、趣味・娯楽の活動、町内会・自治会への参加が、日常生活における交際、あるいは手助けが必要な時の担い手の選択可能性にどのような影響を与えるのか、ライフステージを考慮した分析を行う。個人が取り結ぶ社会関係は多くの要因によって影響を受けるが、なかでも性、年齢といった人口学的要因は関係形成の機会そのものを左右する大きな要因である。特にサポートネットワークに関しては、性別、あるいは年齢、ライフステージによってサポートの必要性、必要なサポートの内容も大きく異なってくる。また地域活動への参加についても、性別、あるいはライフステージによって参加する活動や活動参加の趣旨、そこに求める内容は大きく異なる。つまり調査から得られたすべてのサンプルを対象として地域活動参加と社会的ネットワークの関連を検証しても、そこから得られる知見は学術的にも政策的にもあまり有効なものとは成り得ない。そこで本稿では調査対象者のなかでも定年期に含まれる比較的高年齢の対象者に限定して、分析可能なサンプル数を確保しつつライフステージを統制した分析を行うこととした。

地域活動参加と社会的ネットワーク

人々の社会関係の様相を、地域活動への参加という側面と個々の交際という側面に分けて考えるとき、両者を二分するものは地域性の有無といえる。日本におけるパーソナルネットワークに関する社会学的な研究では、Wellman (1979=2006) による「コミュニティ解放説」の提唱以来、現代社会の人間関係を地理的、空間的距離に左右されない関係の構造としてとらえ、多くの研究が蓄積されてきた（代表的なものとしては、松本（1994）、大谷（1995）、森岡

(2000) など)¹。本稿が対象とする高年齢者の社会関係については、社会学、社会老年学の分野において従来から家族・親族との繋がりを中心に研究が進められてきたが、ソーシャル・サポートの担い手としての社会関係への注目、そして友人・知人、近隣関係を含めたより広い社会関係の構築への注目とともに、1980年代以降からは高齢者の関係形成の契機、発展、そして継続に関する実証研究が広く展開されている（前田（1988）、藤崎（1998）、野辺（1999; 2006）、古谷野ほか（2007）、斉藤（2008）など）。

なかでも本稿が目的とする地域活動への参加との関連については、ソーシャル・キャピタルとの関連で社会老年学の分野でも近年着目されつつある。例えば、安田（2007）は地域参加をソーシャル・キャピタルの枠組みからとらえたうえで東京近郊の4つの団地における地域参加と人間関係量の関連を検証している。それによると、町内会・自治会、老人クラブ、趣味のグループ活動への参加は近隣の知り合いの数やいざというときに頼れる人の数と正の関連をもつ（安田 2007:461）。つまり地域レベルでの集合的活動への参加が高齢者の社会関係と関連しあいつつ、「ソーシャル・キャピタル」の定義とされる信頼や互酬的關係を醸成していく可能性を示唆している。また勤め先を定年退職した後の孤立感、社会との関わりについて、地域活動を通じて社会関係を再構築する支援の必要性にも言及している（安田 2007:461）。一方、菅原・片桐（2007）は中高年者の社会関係を生み出す場としての社会参加活動に着目し、自治会・町内会、PTA、同業者団体、ボランティア、趣味のグループといった「有職の仕事以外で自ら積極的に参加している何らかの社会集団」（菅原・片桐 2007:357）への参加が他者との交流を促進し信頼関係を構築することに資していることを明らかにした。この場合の社会活動は調査対象者の居住地域に限定されない広い社会参加として定義されているが、ここでも安田（2007）と同様に集団参加が

1 なかでも1985年にアメリカで実施されたGeneral Social Survey (GSS) を嚆矢として、回答者にある場面や関係（例えば、「親しい人」「重要なことについて話し合う人々」「話をしたり意見を交換しあったりする人」「日常生活で助けになる人々」など）を想起してもらい、それに該当する人々数人について社会的属性や問柄、親密度や交際頻度を尋ねる調査方法、いわゆるネーム・ジェネレータ方式によって収集されたデータに基づく研究は、パーソナルネットワークやサポートネットワークの構造特性と回答者の意識や態度、社会的地位の間に想定される因果関係について広く探究してきた（森岡（2002）、松本（2004）、安河内（2008）など）。

個人の社会関係にポジティブな影響を与えていることを示されている。

本稿もこれらの研究と同じ問題意識のもとに分析を進めるが、「兵庫県民のコミュニティと生活に関する調査」データの特徴のひとつである社会的ネットワークに関する質問群を用いることで分析内容の精緻化を行う。本調査では社会的ネットワークを測定するために、森岡（2002）、安河内（2008）などの調査でも用いられてきた1985年GSSをベースとしたネーム・ジェネレータ式の調査項目を用いている。これは関係の量的側面、すなわちネットワークのサイズ（人数）だけではなく、3人を上限として関係を取り結ぶ相手の続柄、接触頻度、居住距離、密度など質的側面を含んでおり、地域活動への参加が社会関係に与える影響として、知り合いの多寡だけではなく、相手との距離や接触量といった関係の構造的な特徴に関する分析も可能となる。またそのようなネーム・ジェネレータ式の調査項目を日常生活における社会関係と、何か手助けが必要になったときに頼る先として思い浮かぶサポート資源に分けて測定していることから、地域活動への参加が「交際」という意味における社会関係と「サポート」という意味における社会関係の双方に対して与える影響を検討することができる。

社会的ネットワークのなかでも日常的な外出や会話といった社交関係の形成においては、地域活動への参加がその機会を提供することが予測される。しかし手助けや悩みの相談といった日常生活の様々なイベントにおける支援の担い手として機能するサポートネットワークについては、相談や情緒的なサポート以外にも、物質的な支援や手助けといった道具的なサポートも場合によっては求められることから、以前から指摘されてきたように配偶者や子ども、親族がその担い手として選択されやすく、地域活動に参加したからといってそこにサポートの担い手を見いだすことは難しいかもしれない。地域で行われている様々な活動に参加することで高年齢者の社会関係はどのような影響を受けるのか、本稿ではその関係の質的な違いを考慮して分析を行う。

2. データと変数

データ

分析の対象は「兵庫県民のコミュニティと生活に関する調査」から得られたデータである²。本調査の母集団は兵庫県在住の20～69歳の男女で、市区町村を第1次抽出単位として無作為に抽出し、各地点の大きさに比例した対象者数を各市町村の住民基本台帳より合計4,000人抽出した。郵送法によって調査票の配布・回収を行い、有効回収数は1,088人（有効回収率27.2%）であった。本稿ではこのデータのうち60歳から69歳の男女、330人（男性176人・女性154人）を分析対象とした。

社会的ネットワーク

本稿の分析目的は、地域活動への参加が社会的ネットワークにどのような影響を与えるのかを明らかにすることであるが、従属変数となるネットワークの構造的特徴は複数の観点から操作化することができる。先に述べたように社会関係には、普段から付き合いのある人が何人くらいいるか、という数量的な側面だけでは測定できない質的な側面をもつ。例えば、親や子ども、きょうだいといった親族と、友人・知人、職場の同僚、同じサークルの知り合いなど非親族とではどちらとより関係を取り結んでいるのかという続柄からみた属性、あるいは、どのくらいの距離に住んでいる人とどの程度の頻度で接触するかという交際相手の居住距離や接触の頻度も個人がもつ社会関係の特徴を測る指標となる。また自分と社会関係を取り結ぶ人々同士がどの程度知り合いかという密度／開放性に関する指標も社会的ネットワークに関する研究では頻繁に取り上げられてきた。

「兵庫県民のコミュニティと生活に関する調査」では、これらの構造的な特徴を測定するための質問項目について、「一緒にでかけたり、お話ししたりする、普段からおつきあいのある人」（以下「交際ネットワーク」）と「個人的な悩みを

2 調査の企画と目的、調査内容、実施方法の詳細については鶴飼（2008）を参照。

相談したり、何かと助けになってくれたりする人」(以下「支援ネットワーク」)の2種類のジェネレータ(どのような人々について回答してもらうか想起させるリード文)を用意し、それぞれ3人を上限として回答してもらっている。具体的な測定内容は以下のとおりである。

- ①サイズ：交際ネットワーク、支援ネットワークそれぞれのジェネレータに対して挙げられた人数。サイズは上限を定めずに質問した³。
- ②非親族の数：3人を上限として回答されたネットワークメンバーのうち非親族(近所の人、職場や仕事関係の人、グループやサークルの仲間、学校時代に知り合った人、インターネットで知り合った人、その他の友人・知人)に該当する者の数。
- ③近居者の数：3人を上限として回答されたネットワークメンバーのうち近居者(片道30分未満のところに住んでいる者)の数(同居も含む)。
- ④高頻度接触者の数：3人を上限として回答されたネットワークメンバーのうち少なくとも週1回は会っているとした者の数。
- ⑤密度／開放性：それぞれのジェネレータに対して挙げた人々が互いに知り合いかどうか、回答者の認知を尋ねたもの。選択肢は「全員が互いに知り合い」「お互いに知り合いではない人もいる」「全員が互いに知り合いではない」の3段階尺度で、以降の集計では数値が高いほど相互に知り合いではない(＝開放的)方向となる変数として用いた。

2種類の社会的ネットワークのうち、交際ネットワークとしてどのような構造特性が「良い」あるいは「豊かな」社会関係かは個人の趣味・嗜好、判断に委ねるべきだが、支援ネットワークとしてみた場合には、サポートが必要になった時の選択肢の多さという点で数量的にはサイズが大きい方が、また構造的には開放性が高いほうが望ましいと思われる。また親族(特に配偶者)への依存傾向は低い方がサポートを必要とした時の代替可能性という点で非親族が多い方が良い。さらに遠距離でも機能する心理的・情緒的なサポート資源ではな

3 集計では50人以上(例えば50人、100人など)の回答は外れ値として除外した。

く、手段的・道具的なサポート資源として機能するかどうかという観点で考えるならば、近くに住む者、高い頻度で会う者が多いことはより望ましいといえよう。

地域活動への参加

本調査では地域活動への参加を「現在お住まいの地域でおこなわれている活動についておたずねします。」として、①ボランティア・NPO・市民活動（子育て支援、ケアワーク、環境保護運動など）、②趣味・娯楽・スポーツ活動（ただし、個人での活動を除く）、③地域の自治的活動（自治会、町内会、子ども会、地域行事など）の3種類それぞれに対する参加程度を「積極的に参加している」「やや積極的に参加している」「積極的には参加していない」「参加していない」の4段階尺度で回答してもらっている。以降の集計では数値が高いほど参加程度が高い方向となる変数として用いた。

分析モデル

先に述べた高年齢者が保有する社会的ネットワークの特徴に対して地域活動への参加がどのような影響を与えるのか検証するために、分析では5つの回帰モデルを設定した。まずモデル1で社会的ネットワークに影響することが先行研究などから予測される居住地の都市規模、配偶者の有無、仕事の有無、世帯収入といった統制変数として用いる人口学的・社会経済的属性の効果を推定する⁴。モデル2～4では、これらの統制変数に加えて、ボランティア・NPO・市民活動、趣味・娯楽・スポーツ活動、地域の自治的活動というそれぞれの地域活動への参加程度の効果を推定する⁵。モデル5では、この3種類の地域活動のうち、積極的に参加しているものはいくつかという活動参加の多様性の効果を推定する。もし社会的ネットワークの形成において関係を形成する場、きっかけ、集合的な活動への参加が重要であるならば、居住地域で行われている

4 対象サンプルの基本属性を示す要約統計量はこれら統制変数について文末の付表に掲載した。世帯収入については回帰分析に用いる際に対数変換した。

5 これら3種類の地域活動への参加程度は互いの相関関係が強い(0.5以上)ことから多重共線性を考慮して別個にモデルに含める方法を選択した。

諸活動への積極的な参加、あるいは多様な活動への参加は社会的な、あるいはサポートティブなネットワークの構築に資することが予測される。

なお回帰モデルの検証においては、連続量として分布が広い従属変数であるサイズ（人数）についてはOLS法による重回帰分析を、他の従属変数（非親族の数、近居者の数、高頻度接触者の数、密度／開放性）については順序回帰分析を用いた⁶。

3. 分析

高齢者の地域活動参加と社会的ネットワーク

回帰モデルによる多変量を統制した分析の前に、先に述べた3種類の地域活動への参加程度と社会的ネットワークの構造的な特徴について男女別に確認しておく。図1は3種類の地域活動それぞれに対する参加程度を示したものである。

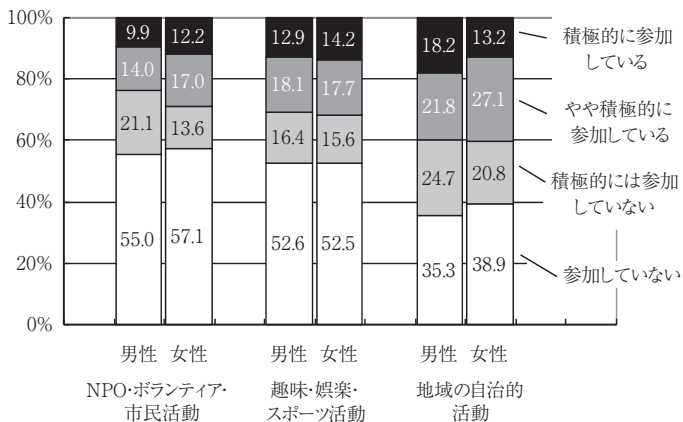


図1 男女別にみた地域活動への参加

6 順序回帰分析のモデル式は従属変数の分布状態に応じてロジット（一様分布の場合）ないし負ログ・マイナス・ログ（変数の値が大きくなるにつれて度数が減少する分布の場合）を用いた。

本稿が分析対象とする60歳以上のサンプルは、調査データ全体からみると他の年齢層より地域活動への参加程度は比較的高いものの、それでもいずれの種類の地域活動においても参加していない、あるいは積極的には参加していないとする「消極派」が多数を占めている。性別についてみると、いずれの活動においても「積極的に参加している」と「やや積極的に参加している」を合わせた割合は男性よりも女性の方がやや多いが、それぞれの活動への参加程度と性別の関連についてカイ二乗検定を行ったところ、いずれの地域活動においても有意な関連はみられなかった。次に交際ネットワーク、支援ネットワークそれぞれの構造的特徴について男女別にみたものが表1である。

表1 男女別にみた社会的ネットワークの構造的特徴

交際ネットワーク (人)				
	サイズ	非親族の数	近居者の数	高頻度接触者の数
男性	6.23	1.52	1.34	1.16
女性	6.38	1.69	1.45	1.37

支援ネットワーク (人)				
	サイズ	非親族の数	近居者の数	高頻度接触者の数
男性	3.20	0.95	1.13	0.91
女性	3.43	1.17	1.22	1.18

交際ネットワークでは、男性のサイズの平均値は6.23人、女性が6.38人と男女とも6人くらいの人々を日常的に一緒にでかけたり話したりする相手として想起している。そのうち3人を上限として個別の相手について回答した内容を見ると、非親族数はほぼ半数の1.5から1.7人程度、3人のうち1人以上は30分以内の場所に居住しており、また1週間に1度以上は会う相手として平均して1人以上は挙げられている。これに対して支援ネットワークでは、男女ともサイズの平均値は3人あまりと日常的な交際相手の半分程度となっている。また交際ネットワークと同じように3人を上限として個別の相手について回答した内容を見ると、非親族、近居者の数、高頻度接触者の数とも1人前後で、それぞれ

女性は男性よりもやや多いもののいずれの特徴においても交際ネットワークより規模の小さいものになっている。それぞれの特徴についてt検定を行って男女間の平均の差を検定したところ、交際ネットワーク、支援ネットワークとも高頻度接触者の数のみ（前者では10%水準で、後者では5%水準で）、有意な差がみられた。女性の交際ネットワーク、支援ネットワークには男性よりも日頃からよく会う人々が含まれている。一方でサイズや居住距離には性別による違いは見られず、これは野辺（1999）などの先行研究とも一致する結果であった。

開放性についても性別ごとにみたところ、交際ネットワーク、支援ネットワークいずれにおいても「全員がお互いに知り合い」と回答した割合が最も多く、男女とも6～7割が日常的な交際相手、あるいはサポートを期待する相手ともに相互に知っている人々から構成されていることが示された⁷。

回帰モデルによる多変量解析

3種類の地域活動への参加程度、および活動参加の多様性が交際ネットワーク、支援ネットワークの構造特性に与える影響について、先に述べた回帰モデルに基づいて統制変数を含めて検証した結果が表2、表3である。

表2-1 交際ネットワークの構造特性に関する回帰分析（男性）

サイズ	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模（1=20万人以上）	-0.013 ns	0.030 ns	-0.005 ns	0.022 ns	0.029 ns
配偶関係（1=有配偶）	0.183 *	0.116 ns	0.146 +	0.132 ns	0.127 ns
仕事の有無（1=仕事あり）	-0.057 ns	-0.066 ns	-0.063 ns	-0.060 ns	-0.071 ns
世帯収入	0.101 ns	0.141 +	0.122 ns	0.132 ns	0.150 +
地域活動への参加（ボランティア等）		0.271 **			
地域活動への参加（趣味・娯楽等）			0.149 +		
地域活動への参加（自治的活動）				0.229 **	
積極的な活動参加数					0.219 *
調整済みR2乗	0.023 ns	0.079 **	0.034 +	0.060 *	0.055 *
n	153	149	149	148	146

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

7 両ネットワークとも若年層ほど開放性は高く、高齢者のネットワークが相互に認識しあった緊密なネットワークであることが示唆される。

非親族の数

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	0.117 ns	0.309 ns	0.205 ns	0.240 ns	0.427 ns
配偶関係 (1=有配偶)	1.919 *	2.208 *	2.335 *	2.465 *	2.163 *
仕事の有無 (1=仕事あり)	0.486 ns	0.417 ns	0.438 ns	0.430 ns	0.454 ns
世帯収入	0.409 +	0.710 **	0.563 *	0.523 *	0.885 **
地域活動への参加 (ボランティア等)		0.357 *			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.315 *		
地域活動への参加 (自治的活動)				0.145 ns	
積極的な活動参加数					0.460 **
Nagelkerke R2乗	0.103	0.167	0.149	0.122	0.199
n	147	145	145	144	142

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

近居者の数

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	-0.598 +	-0.579 +	-0.584 +	-0.433 ns	-0.546 +
配偶関係 (1=有配偶)	1.896 *	1.549 +	1.539 +	1.284 ns	1.445 +
仕事の有無 (1=仕事あり)	-0.471 ns	-0.506 ns	-0.431 ns	-0.381 ns	-0.411 ns
世帯収入	0.086 ns	0.073 ns	0.096 ns	0.267 ns	0.116 ns
地域活動への参加 (ボランティア等)		0.247 ns			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.166 ns		
地域活動への参加 (自治的活動)				0.550 **	
積極的な活動参加数					0.307 *
Nagelkerke R2乗	0.077	0.091	0.077	0.148	0.102
n	149	147	147	146	144

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

高頻度接触者の数

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	-0.441 ns	-0.382 ns	-0.428 ns	-0.255 ns	-0.346 ns
配偶関係 (1=有配偶)	1.497 *	1.774 *	1.852 *	1.590 +	1.667 +
仕事の有無 (1=仕事あり)	0.033 ns	-0.018 ns	0.021 ns	0.014 ns	0.035 ns
世帯収入	0.288 ns	0.352 ns	0.290 ns	0.451 +	0.364 ns
地域活動への参加 (ボランティア等)		0.080 ns			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			-0.029 ns		
地域活動への参加 (自治的活動)				0.333 *	
積極的な活動参加数					0.158 ns
Nagelkerke R2乗	0.063	0.071	0.069	0.104	0.077
n	148	147	146	146	145

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

開放性

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	0.010 ns	-0.011 ns	0.024 ns	-0.031 ns	-0.008 ns
配偶関係 (1=有配偶)	0.163 ns	0.255 ns	0.124 ns	0.229 ns	0.218 ns
仕事の有無 (1=仕事あり)	0.392 ns	0.434 ns	0.349 ns	0.361 ns	0.316 ns
世帯収入	0.376 ns	0.339 ns	0.429 +	0.310 ns	0.348 ns
地域活動への参加 (ボランティア等)		-0.146 ns			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.076 ns		
地域活動への参加 (自治的活動)				-0.100 ns	
積極的な活動参加数					-0.049 ns
Nagelkerke R2乗	0.049	0.057	0.053	0.047	0.043
n	125	125	124	123	122

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

表2-2 交際ネットワークの構造特性に関する回帰分析（女性）

サイズ	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模（1=20万人以上）	-0.279 **	-0.223 *	-0.231 *	-0.236 *	-0.226 *
配偶関係（1=有配偶）	-0.169 +	-0.225 *	-0.270 **	-0.223 *	-0.243 *
仕事の有無（1=仕事あり）	-0.045 ns	0.007 ns	0.056 ns	0.009 ns	0.034 ns
世帯収入	0.023 ns	0.105 ns	0.082 ns	0.038 ns	0.090 ns
地域活動への参加（ボランティア等）		0.240 *			
地域活動への参加（趣味・娯楽等）			0.354 **		
地域活動への参加（自治的活動）				0.142 ns	
積極的な活動参加数					0.309 **
Nagelkerke R2乗	0.078 *	0.119 **	0.202 **	0.089 *	0.147 **
n	114	108	105	106	104
** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10					
非親族の数					
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模（1=20万人以上）	-0.163 ns	0.012 ns	-0.012 ns	0.068 ns	0.007 ns
配偶関係（1=有配偶）	-0.627 ns	-0.870 +	-1.071 +	-0.967 +	-0.957 +
仕事の有無（1=仕事あり）	0.149 ns	0.330 ns	0.446 ns	0.410 ns	0.373 ns
世帯収入	0.178 ns	0.226 ns	0.260 ns	0.187 ns	0.256 ns
地域活動への参加（ボランティア等）		0.158 ns			
地域活動への参加（趣味・娯楽等）			0.241 ns		
地域活動への参加（自治的活動）				0.238 ns	
積極的な活動参加数					0.147 ns
Nagelkerke R2乗	0.023	0.044	0.066	0.063	0.053
n	109	104	100	102	100
** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10					
近居者の数					
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模（1=20万人以上）	-0.408 ns	-0.289 ns	-0.311 ns	-0.202 ns	-0.286 ns
配偶関係（1=有配偶）	-0.044 ns	-0.281 ns	-0.271 ns	-0.303 ns	-0.264 ns
仕事の有無（1=仕事あり）	-1.010 **	-0.918 *	-0.877 *	-0.927 *	-0.899 *
世帯収入	-0.006 ns	0.099 ns	0.064 ns	0.104 ns	0.075 ns
地域活動への参加（ボランティア等）		0.132 ns			
地域活動への参加（趣味・娯楽等）			0.116 ns		
地域活動への参加（自治的活動）				0.222 ns	
積極的な活動参加数					0.110 ns
Nagelkerke R2乗	0.086	0.079	0.081	0.095	0.081
n	111	105	103	104	103
** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10					
高頻度接触者の数					
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模（1=20万人以上）	-0.628 +	-0.548 ns	-0.619 +	-0.511 ns	-0.505 ns
配偶関係（1=有配偶）	0.265 ns	0.078 ns	0.176 ns	0.100 ns	0.122 ns
仕事の有無（1=仕事あり）	-0.569 ns	-0.598 ns	-0.450 ns	-0.558 ns	-0.441 ns
世帯収入	0.153 ns	0.395 ns	0.275 ns	0.246 ns	0.341 ns
地域活動への参加（ボランティア等）		0.505 **			
地域活動への参加（趣味・娯楽等）			0.328 *		
地域活動への参加（自治的活動）				0.344 *	
積極的な活動参加数					0.490 **
Nagelkerke R2乗	0.065	0.141	0.104	0.108	0.141
n	107	102	99	100	99
** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10					

開放性

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	0.221 ns	0.249 ns	0.451 ns	0.177 ns	0.216 ns
配偶関係 (1=有配偶)	-0.145 ns	-0.204 ns	-0.362 ns	-0.175 ns	-0.238 ns
仕事の有無 (1=仕事あり)	0.193 ns	0.267 ns	0.362 ns	0.209 ns	0.199 ns
世帯収入	0.354 ns	0.302 ns	0.510 *	0.327 ns	0.373 ns
地域活動への参加 (ボランティア等)		-0.102 ns			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.367 *		
地域活動への参加 (自治的活動)				-0.218 ns	
積極的な活動参加数					-0.009 ns
Nagelkerke R2乗	0.040	0.052	0.108	0.071	0.046
n	107	103	100	101	99

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

表3-1 支援ネットワークの構造特性に関する回帰分析 (男性) ⁸

サイズ

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	-0.107 ns	-0.073 ns	-0.101 ns	-0.085 ns	-0.084 ns
配偶関係 (1=有配偶)	-0.025 ns	-0.068 ns	-0.035 ns	-0.045 ns	-0.046 ns
仕事の有無 (1=仕事あり)	0.023 ns	0.017 ns	0.017 ns	0.030 ns	0.019 ns
世帯収入	0.152 +	0.184 *	0.166 +	0.171 +	0.182 *
地域活動への参加 (ボランティア等)		0.202 *			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.052 ns		
地域活動への参加 (自治的活動)				0.101 ns	
積極的な活動参加数					0.096 ns
調整済みR2乗	0.006 ns	0.037 +	0.001 ns	0.008 ns	0.007 ns
n	147	145	144	143	142

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

非親族の数

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	-0.409 ns	-0.218 ns	-0.325 ns	-0.318 ns	-0.226 ns
配偶関係 (1=有配偶)	0.293 ns	0.078 ns	0.219 ns	0.397 ns	0.212 ns
仕事の有無 (1=仕事あり)	0.638 +	0.581 +	0.609 +	0.557 +	0.536 ns
世帯収入	0.421 ns	0.603 *	0.522 +	0.473 +	0.592 *
地域活動への参加 (ボランティア等)		0.484 **			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.364 *		
地域活動への参加 (自治的活動)				0.143 ns	
積極的な活動参加数					0.351 *
Nagelkerke R2乗	0.071	0.133	0.115	0.073	0.104
n	144	143	142	141	140

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

8 近居者の数に関しては、配偶関係と従属変数の関連に極端な偏りが生じていることにより係数の推定が影響を受けたためこの分析のみ配偶関係を除いて分析を行った。

近居者の数

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	-0.455 *	-0.450 ns	-0.483 *	-0.357 ns	-0.425 ns
配偶関係 (1=有配偶)	----	----	----	----	----
仕事の有無 (1=仕事あり)	-0.245 ns	-0.267 ns	-0.185 ns	-0.141 ns	-0.145 ns
世帯収入	0.162 ns	0.213 ns	0.162 ns	0.251 ns	0.269 ns
地域活動への参加 (ボランティア等)		0.369 ** *			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.207 *		
地域活動への参加 (自治的活動)				0.317 ** *	
積極的な活動参加数					0.325 ** *
Nagelkerke R2乗	0.034	0.128	0.068	0.032	0.104
n	143	142	141	140	139

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p \geq .10

高頻度接触者の数

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	-0.219 ns	-0.138 ns	-0.205 ns	-0.106 ns	-0.124 ns
配偶関係 (1=有配偶)	1.143 ns	1.604 ns	1.692 ns	1.604 ns	1.608 ns
仕事の有無 (1=仕事あり)	-0.044 ns	-0.089 ns	-0.064 ns	-0.074 ns	-0.082 ns
世帯収入	0.007 ns	0.059 ns	0.028 ns	0.069 ns	0.056 ns
地域活動への参加 (ボランティア等)		0.135 ns			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.021 ns		
地域活動への参加 (自治的活動)				0.151 ns	
積極的な活動参加数					0.124 ns
Nagelkerke R2乗	0.034	0.058	0.047	0.063	0.058
n	142	141	140	139	138

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p \geq .10

開放性

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	-0.327 ns	-0.341 ns	-0.311 ns	-0.436 ns	-0.425 ns
配偶関係 (1=有配偶)	-0.696 ns	-0.653 ns	-0.677 ns	-0.773 ns	-0.725 ns
仕事の有無 (1=仕事あり)	-0.042 ns	-0.029 ns	-0.077 ns	-0.021 ns	-0.055 ns
世帯収入	0.395 ns	0.381 ns	0.418 ns	0.377 ns	0.384 ns
地域活動への参加 (ボランティア等)		-0.058 ns			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.009 ns		
地域活動への参加 (自治的活動)				-0.028 ns	
積極的な活動参加数					-0.050 ns
Nagelkerke R2乗	0.035	0.036	0.036	0.042	0.043
n	119	119	118	117	116

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p \geq .10

表3-2 支援ネットワークの構造特性に関する回帰分析（女性）

サイズ

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模（1=20万人以上）	-0.154 ns	-0.106 ns	-0.130 ns	-0.130 ns	-0.137 ns
配偶関係（1=有配偶）	-0.112 ns	-0.121 ns	-0.130 ns	-0.115 ns	-0.120 ns
仕事の有無（1=仕事あり）	0.012 ns	0.059 ns	0.086 ns	0.059 ns	0.076 ns
世帯収入	0.112 ns	0.133 ns	0.083 ns	0.096 ns	0.083 ns
地域活動への参加（ボランティア等）		0.109 ns			
地域活動への参加（趣味・娯楽等）			0.076 ns		
地域活動への参加（自治的活動）				0.021 ns	
積極的な活動参加数					0.040 ns
調整済みR2乗	0.005 ns	-0.004 ns	-0.006 ns	-0.013 ns	-0.010 ns
n	115	109	106	107	105

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

非親族の数

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模（1=20万人以上）	-0.446 ns	-0.431 ns	-0.534 ns	-0.542 ns	-0.597 ns
配偶関係（1=有配偶）	-0.668 ns	-0.592 ns	-0.772 ns	-0.592 ns	-0.640 ns
仕事の有無（1=仕事あり）	0.576 ns	0.589 ns	0.655 ns	0.646 ns	0.561 ns
世帯収入	-0.100 ns	-0.094 ns	-0.050 ns	-0.139 ns	-0.112 ns
地域活動への参加（ボランティア等）		-0.005 ns			
地域活動への参加（趣味・娯楽等）			0.191 ns		
地域活動への参加（自治的活動）				-0.109 ns	
積極的な活動参加数					-0.087 ns
Nagelkerke R2乗	0.054	0.051	0.077	0.069	0.066
n	104	98	96	96	96

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

近居者の数

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模（1=20万人以上）	-0.941 **	-0.906 *	-0.836 *	-0.882 *	-0.844 *
配偶関係（1=有配偶）	0.233 ns	0.151 ns	0.175 ns	0.174 ns	0.202 ns
仕事の有無（1=仕事あり）	-0.440 ns	-0.365 ns	-0.278 ns	-0.398 ns	-0.342 ns
世帯収入	-0.170 ns	-0.120 ns	-0.131 ns	-0.120 ns	-0.144 ns
地域活動への参加（ボランティア等）		0.075 ns			
地域活動への参加（趣味・娯楽等）			0.169 ns		
地域活動への参加（自治的活動）				0.034 ns	
積極的な活動参加数					0.040 ns
Nagelkerke R2乗	0.092	0.085	0.085	0.081	0.075
n	104	98	96	97	96

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

高頻度接触者の数

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模（1=20万人以上）	-0.405 ns	-0.276 ns	-0.305 ns	-0.311 ns	-0.182 ns
配偶関係（1=有配偶）	0.308 ns	0.445 ns	0.432 ns	0.386 ns	0.446 ns
仕事の有無（1=仕事あり）	0.166 ns	0.198 ns	0.354 ns	0.198 ns	0.364 ns
世帯収入	0.104 ns	0.325 ns	0.174 ns	0.171 ns	0.229 ns
地域活動への参加（ボランティア等）		0.421 *			
地域活動への参加（趣味・娯楽等）			0.363 *		
地域活動への参加（自治的活動）				0.181 ns	
積極的な活動参加数					0.368 *
Nagelkerke R2乗	0.022	0.087	0.076	0.043	0.071
n	102	96	94	95	94

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p≥.10

開放性

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
居住地の人口規模 (1=20万人以上)	-0.106 ns	-0.050 ns	-0.038 ns	-0.017 ns	-0.113 ns
配偶関係 (1=有配偶)	-0.129 ns	-0.206 ns	-0.298 ns	-0.181 ns	-0.218 ns
仕事の有無 (1=仕事あり)	0.083 ns	0.181 ns	0.176 ns	0.148 ns	0.129 ns
世帯収入	0.043 ns	0.043 ns	0.089 ns	0.059 ns	0.055 ns
地域活動への参加 (ボランティア等)		0.021 ns			
地域活動への参加 (趣味・娯楽等)			0.123 ns		
地域活動への参加 (自治的活動)				0.073 ns	
積極的な活動参加数					0.023 ns
Nagelkerke R ² 乗	0.003	0.005	0.014	0.006	0.006
n	100	96	93	94	92

** : p<.01 * : p<.05 + : p<.10 ns : p \geq .10

男女の交際ネットワーク、支援ネットワークの各特性に対して地域活動への参加、あるいは参加活動の多様性が与える影響はそれぞれ異なっているので個別にその内容を確認する。まず男性の交際ネットワークについては、ボランティア・NPO・市民活動といった地域活動への参加は、交際ネットワークの大きさ（サイズ）に対して1%水準で、非親族の数に対して5%水準でそれぞれ有意な正の効果を与えている。趣味・娯楽・スポーツ活動といった地域活動への参加は、非親族の数に対して5%水準で、サイズに対しては10%水準で有意な正の効果を与えている。自治的活動への参加は、サイズと近居者の数に対して1%水準で、高頻度接触者の数に対して5%水準でそれぞれ有意な正の効果を与えている。これらの諸活動のうち積極的に参加している活動の種類数は、非親族の数に対して1%水準で、サイズ、近居者の数に対して5%水準でそれぞれ有意な正の効果を与えている。すなわち、本調査で提示したような地域活動に参加することは、いずれの活動においても男性の交際ネットワークを大きくしている。また自治的活動以外の地域活動への参加は友人・知人、近隣の人といった非親族の交際相手を増加させる。一方で町内会・自治会といった自治的活動への参加は近くに住んでいたり、日頃からよく会ったりする交際相手を増加させる。さらに多様な地域活動に参加している人ほど交際ネットワークのサイズは大きく、また親族以外であったり、比較的近くに住んでいる交際相手の数が多い。

一方、女性の交際ネットワークについては、地域活動への参加が与える影響は男性の場合よりも限定的である。交際ネットワークの大きさと高い頻度で接

触する交際相手の数に対してはいずれの地域活動への参加も有意水準は異なるもののほとんどが有志な正の効果を示しているが、それ以外では趣味・娯楽・スポーツ活動への参加が交際ネットワークの開放性に対して5%水準で有意な正の効果を示しているのみであった。女性の場合、このような地域活動への参加は交際ネットワークにおける非親族の数や近くに住んでいる人の数にはほとんど影響していない。

次に男性の支援ネットワークについてみると、ボランティア・NPO・市民活動といった地域活動への参加は、交際ネットワークの大きさ（サイズ）に対して5%水準で、非親族と近居者の数に対して1%水準でそれぞれ有意な正の効果を与えており、有意水準は異なるものの交際ネットワークとほぼ同じ傾向を示した。趣味・娯楽・スポーツ活動といった地域活動への参加も、サイズに対する効果は有意ではないが、非親族の数に対しては5%水準で、交際ネットワークと同様の効果を与えている。自治的活動への参加は近居者の数に対してのみ1%水準で有意な正の効果を与えている。活動参加の多様性については、非親族の数に対して5%水準で、近居者の数に対して1%水準でそれぞれ有意な正の効果を与えている。

このように男性の支援ネットワークは交際ネットワークよりは限定されるものの地域活動への参加によって影響を受けていたのに対して、女性の支援ネットワークはほとんどの構造特性が地域活動への参加から影響を受けていない。高い頻度で接触する者の数のみ、自治的活動以外の活動参加が有意な正の効果を与えているが、それ以外のサイズや非親族の数、近居者の数などについては、地域での活動に参加していることで参加していないケースよりも多くなるといった傾向はみられなかった。地域で行われている諸種の活動に参加することで、男性の支援ネットワークはサイズそのものが大きくなる、あるいは非親族以外の人が増えたり、近くに住む人が増えたりといったサポート資源としての充実が得られるが、女性においては比較的良好よく会う人が増えるといった限定的な効果のみであることが明らかになった。また、交際ネットワークと支援ネットワークを分けて分析した結果、地域活動への参加は日常生活における交際相手の構成により強く影響を与える一方で、相談したり手助けを求めたりするサポートの担い手の構成には交際ネットワークほど影響していないことが示され

た。

統制変数の効果は、交際ネットワーク、支援ネットワークそれぞれの構造特性を測定したいくつかの従属変数に対して有意なものがみられた。男性の交際ネットワークでは配偶関係の効果が有意な場合が多く、配偶者がいることが非親族の数、近居者の数、高頻度で接触する者の数にそれぞれ有意な正の効果を示している。また世帯収入が多いケースでは非親族の交際相手が多い。一方女性の交際ネットワークでは、配偶関係がサイズと、弱いながら非親族の数において有意な負の効果を示しており、男性とは反対に配偶者がいることによって家庭に、あるいは家族役割に拘束されていることを伺わせる結果も示された。これら以外の統制変数の効果としては、人口規模が負の効果をもつ分析モデルがあったことから、特に大都市ではサイズや近くに住む交際相手、あるいは支援を求めることができる人が少ないという状況が推測される。

4. 考察

本稿は兵庫県に住む60歳から69歳の男女を対象にして様々な地域活動への参加が、個人のもつ社会的ネットワークにどのような影響を与えるのかについて検討した。分析から明らかになった主要な結果は以下の3点である。

(1)男女とも地域で行われている諸活動に参加することは、その活動の種類を問わず交際ネットワークの拡大に寄与する。また積極的に参加している活動が複数あることも交際ネットワークにおける量的側面に正の効果を与えている。すなわち、定年期において例えば退職後に地域で行われている様々な種類の活動の参加してみることは、新たな社会関係を形成するきっかけを提供すると考えられる。

(2)地域活動への参加が高年齢者の交際ネットワークの質的側面、構造的な特性に与える影響は男女で異なる。例えば男性の場合、地域活動への参加によって非親族、居住者、高い頻度で接触する交際相手が多くなるが、女性の場合、地域活動への参加によって影響を受けるのは高い頻度で接触する交際相手である。

(3)男性の支援ネットワークは地域活動への参加によってサポート資源が拡充する方向へ変化するのに対して、女性の支援ネットワークは地域活動への参加によってほとんど影響を受けない。女性の場合、地域で行われている活動に参加することが直接的に支援の担い手層を広げる結果には結びつかない。

一部のソーシャル・キャピタルに関する議論では、地域で行われているコミュニティ活動への参加が人々のネットワーキングを促し、そこに信頼が醸成され、相互扶助関係が構築されていくというようにやや楽観的に描かれるケースも見られるが、社会的ネットワークを交際と支援という2つの側面からとらえると必ずしもそのような状況ではないことが示唆される。確かに地域活動への参加は高齢者の交際関係を広げ、親族以外との接触を高めたり、近くに住む人、よく会う人を増やすことに寄与するが、一方で実際に何を頼んだり、相談したり、あるいは具体的な手助けを求めるような人間関係の構築には、(特に女性において)必ずしも直結するわけではない。本調査では地域で行われている諸活動に積極的に参加している人々に対して、その活動における他者とのつきあいの程度も質問している(図2)。

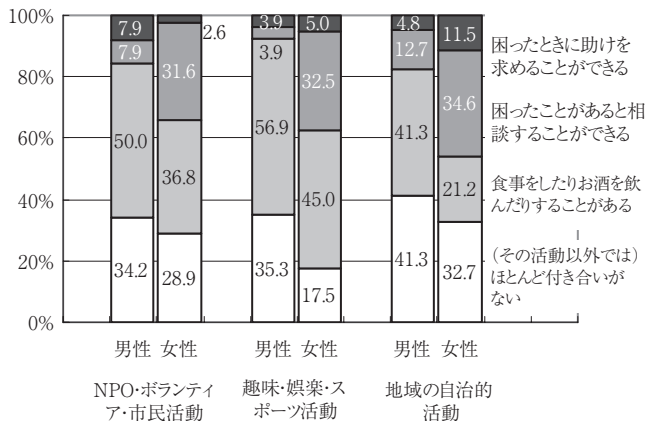


図2 積極的に参加している地域活動におけるつきあいの程度

これによると、男性の場合は多くの地域活動において「食事をしたりお酒を

飲んだりすることがある」程度のつきあいをしており、女性の場合それに加えて「困ったときに相談することができる」程度のつきあいはしている。本稿の分析においても示されたように、地域活動への参加が交際ネットワークを拡充する、すなわちサイズ以外にも、近くに住む人が増えたり、よく会う人が増えたりする機会を提供していることが推測できる。しかし「困ったときに助けを求めることができる」という手段的なサポートを含むつきあいについては、この設問が対象としたどちらかといえば積極的に参加しているケースにおいてすらいずれの地域参加も1割程度しか該当するケースはいない。本稿の分析結果でも現状において地域活動への参加は支援ネットワークよりも交際ネットワークに影響するという結果が示されたが、「共助」の観点から考えると、地域活動への参加を他者との交際のみを提供するだけではなく、相互扶助、支援関係の形成に結びつけていく工夫が今後のコミュニティ行政の政策的課題といえよう。

最後に方法論的な課題としては、社会的ネットワークの構造特性についてサイズ以外は3人を上限とした範囲で非親族や近くに住む者、日頃よく会う者などを測定したため、地域活動への参加が社会関係を形成するきっかけとなっているかどうか、十分には測定できていない点が挙げられる。例えば、3人目までは比較的親密な、旧来からのつきあいに基づく選択がなされているとすれば、4人目、あるいは5人目以降に選択される相手が地域活動への参加によって出会った可能性もある。また地域活動への参加についても、本調査は兵庫県全域を対象として実施したことから分析で示したようにボランティア、趣味・娯楽、自治的活動という大きな区分を用いたが、より詳細な活動の内容や参加頻度、加入動機やきっかけなども合わせて社会関係の形成とどのように関連しているか検証することが求められる。ライフステージを考慮しながらソーシャル・キャピタルを包括的に測定し、その内的連関を検証しようとする理論と調査の枠組みづくりが今後の課題である。

付記

本研究は科学研究費補助金による研究プロジェクト（基盤研究（B）（1）16330112「新しいコミュニティの構想：東部被災地をフィールドとして」研究

代表者：鶴飼孝造（同志社大学）による成果の一部である。

文献

- 藤崎宏子, 1998, 『高齢者・家族・社会的ネットワーク』培風館.
- 厚生労働省, 2003, 『平成15年版 厚生労働白書』.
- 古谷野亘・矢部拓也・西村昌紀・高木恒一・浅川達人・安藤孝敏, 2007, 「地方都市における高齢者の社会関係」『老年社会科学』29 (1) : 58-64.
- Putnam, Robert D., 1993, *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton: Princeton University Press. (=2001, 河田潤一訳『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』NTT出版.).
- 前田尚子, 1988, 「老年期の友人関係：別居子関係との比較検討」『社会老年学』28 (1) : 58-70.
- 松本康, 1995, 『増殖するネットワーク』勁草書房.
- , 2004, 『東京で暮らす：都市社会構造と社会意識』東京都立大学出版会.
- 森岡清志, 2000, 『都市社会のパーソナルネットワーク』東京大学出版会.
- , 2002, 『パーソナルネットワークの構造と変容』東京都立大学出版会.
- 野辺政雄, 1999, 「高齢者の社会的ネットワークとソーシャル・サポートの性別による違いについて」『社会学評論』50 (3) : 475-392.
- , 2006, 『高齢女性のパーソナルネットワーク』お茶の水書房.
- 大谷信介, 1995, 『現代都市住民のパーソナルネットワーク：北米都市理論の日本的読解』ミネルヴァ書房.
- 斉藤雅茂, 2008, 「高齢者の社会的ネットワークの経年的変化：6年間のパネルデータを用いた潜在成長曲線モデルより」『老年社会科学』29 (4) : 516-525.
- 園田恭一, 2003, 『社会福祉とコミュニティ：共生・共同・ネットワーク』東信堂.
- 菅原育子・片桐恵子, 2007, 「中高年齢者の社会参加活動における人間関係」『老年社会科学』29 (3) : 355-365.
- 豊田保, 2005, 『福祉コミュニティの形成と市民福祉活動』萌文社.
- 鶴飼孝造, 2008, 『新しいコミュニティの構想：東部被災地をフィールドとして 第1分冊2006年兵庫県民調査報告書』2004-2007年度科学研究費補助金研究成果報告書, 同志社大学.
- 渡邊敏文, 2007, 『地域福祉における住民参加の検証』相川書房.
- Wellman, Barry., 1979, "The Community Question: The Intimate Networks of East Yorkers." *American Journal of Sociology*, 84: 1201-1231. (=2006, 野沢慎司・立山徳子訳「コミュニティ問題：イースト・ヨーク住民の親密なネットワーク」野沢慎司 [編・監訳] 『リーディングス ネットワーク論：家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房, 159-200.)

安田節之, 2007, 「大都市近郊の団地における高齢者の人間関係量と地域参加」『老年社会科学』28 (4) : 450-463.

安河内恵子, 2008, 『既婚女性の就業とネットワーク』ミネルヴァ書房.

付表

統制変数の記述統計

居住地の人口規模		
20万人未満	137	41.5%
20万人以上	193	58.5%
配偶関係		
配偶者なし	38	11.7%
配偶者あり	287	88.3%
仕事の有無		
無職・専業主婦	160	55.0%
仕事あり	131	45.0%
世帯収入		
300万円未満	109	34.2%
300-500万円未満	87	27.3%
500-700万円未満	63	19.7%
700-1000万円未満	33	10.3%
1000万円以上	27	8.5%